

株式会社 Uca

アイデアを花開かせるために
また新しい一歩を踏み出す

大切な人へ、大切な時に、花を贈る。そんな幸せの瞬間をアイデア豊かな商品など、さまざまな形でサポートしている会社。生花やプリザーブドフラワーなどを扱う花のプロフェッショナルであり、会社のある代官山では、「パティスリーフラワー」というプロポーズとフラワーギフトの専門店を営んでいる。さらに大丸東京店も構え、花を通じた笑顔と喜びの輪を広げている。

主な権利

2009年：特許 第4260781号
(富士通 開放特許)
2012年：商標登録 第5523798号

会社概要

所在地：東京都渋谷区鶯谷町15-5 大芦ビル1F
電話：03-6416-3411
URL：https://uca-design.com
業種：フラワーギフトの製造・販売や
ウェディング装飾など
設立：2007年(平成19年) 資本金：1,000万円



代表取締役：片山 結花さん

元気を届けてくれた花への
感謝の想いを自分の仕事に

「幼い頃は体が弱くて、病院のベッドにいても多い子どもでした。そんな私を元気づけて癒してくれたのは、先生や友人、家族がお見舞いに届けてくれたお花でした」と語る片山結花さん。この記憶が今もずっと心に灯っている。

香川県の瀬戸内海に浮かぶ直島の生まれ。大学卒業後は、岡山で某有名自動車ディーラーの受付の仕事をしていましたが、お花屋さんになりたいという幼少からの夢は捨てきれなかった。25歳で上京し、花屋への就職活動を開始。しかし実務が未経験であるという理由で、どこも採用されなかった。それでも初志貫徹するために、花を取り扱うウェディング・プロデュースの会社に入社した。

早朝5時からの花市場での仕入れ。新郎新婦との打ち合わせ。会場装花やブーケのオリジナルデザイン。搬入、活け込み、そして撤収。憧れていた花の仕事はたいへんな肉体労働であり、心が折れそ

うにもなった。しかし新郎新婦をはじめ、ブライダルの世界で出会うたくさんの人の笑顔や感動の涙にふれて、やはり花の仕事をしてよかったと胸に刻む。

たくさんの優しい気持ちを
幸せのギフトにする

その後、FENDIが夢をめざす女性を応援する「シンデレラオーディション」にたまたま応募したところ、見事にシンデレラガールの栄冠に輝く。そのご褒美は、世界的なフラワーアーティストであるニコライ・バーグマン氏からの直接の指導だった。多くの貴重な経験と努力を重ね、2007年に会社を設立。株式会社Uca(ウカ)の社名には、蝶が羽化して、花々を渡り植物の命を育むように、すべてのお客様に親身に寄り添い、たくさんの幸せを応援したいとの想いが込められている。

その想いは多くのアイデアとなり、素敵に花開いている。例えば「メッセージフラワー」。プリザーブドフラワーの花びらに「Happy Birthday!」「Will you

marry me?」などのオリジナルメッセージを入れて、たくさんの人たちに喜ばれている。愛する人をお花とともに、オリジナルの贈り物で喜ばせたい…そんな優しい気持ちを、幸せのカタチにできるのが、Ucaのギフト。だからこそ1万件以上のプロポーズをサポートしてきたのだ。

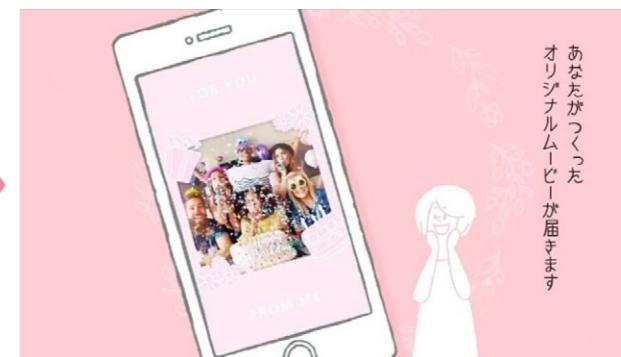
開放特許を使ったアイデアが
新しい製品の扉を開く

そんな同社はある日、知財センターからの紹介という形で、知的財産の分野に新しい一歩を踏み出すことになった。

大手企業などには、特許を取得しても未活用のままになっているものがたくさんある。そうした特許を一般に開放すれば、もっと新たなアイデアが生まれ、世の中の役に立つかもしれない。そんな機会となるのが、「知財活用アイデアプレゼン大会」。開放特許を使って全国の大学生がゼミの場でアイデアを生み出し、それを都内の中小企業のモノづくりにつなげることを目的に開催された。



動画編集アプリ「ストメモ」付きのフラワーギフト、「プリリアントローズ」。愛しい人との思い出を動画にして、花と一緒に贈ることができる。



(左) 同社の人気商品「メッセージローズ」。バラの花びらに、大切な人へのメッセージをプリントして届けられる。

(右) お花をいっぱい敷き詰めた、オリジナルのオルゴールボックス。「星に願いを」の音色とともに、バラの花びらにプロポーズの言葉を添えてプレゼントできる。



2014年度の大会では、富士通株式会社が保有する開放特許を使い、学生たちがコンクール形式でビジネスアイデアや事業プランを競い合った。

この大会に参加した駒澤大学の学生6人が選んだ技術は、「印刷画像へのコード埋め込み技術」。人の目には見えにくいパターンを情報コードとして印刷画像に埋め込み、Webコンテンツに誘導できる技術だ。これを用いた駒澤大学の学生たちのアイデアは、「花に印刷する」という画期的なものだった。入賞には至らなかったが、このアイデアに注目したのが、プレゼンテーションを聞いた知財センターの製品化コーディネーターである。

知財センターからの連絡で
学生たちとコラボレーション

2015年春、製品化コーディネーターは、このアイデアをUcaに紹介した。こうした技術を使えば、ギフト用の花にコード付き写真を印刷し、スマートフォンをかざすとリンク先の動画などを見ることが

できる。つまり、花の先にもう一つの大きなサプライズが用意されているのだ。

片山社長はすぐに、面白い、やってみようかと決断した。元々が、思い立ったらすぐに行動し挑戦していくタイプ。新しい一歩を踏み出すことを厭わない。しかし、製品化を実現するには費用などの難題も多かった。

さまざまな取り組みを重ね、2017年4月、富士通とのライセンス契約が進み、国のものづくり補助金の助成に採択されて、製品開発が本格的にスタートした。アプリの開発は外部に委託し、完成したのがStory of Memory、通称「ストメモ」。世界にたった一つのオリジナルムービーを編集・再生することができ、現在は通販サイトで販売され、企業のノベルティとしても使われている。

中小企業だからこそ
踏み出せる次の世界がある

中小企業であるからこそ、できることがあると片山社長は考えている。「大手企業だと、花びらに写真やメッセージを入れるという面倒で手間のかかることは、やらないかもしれません。でも、私たちのような規模の会社だからこそ、学生さんとのプロジェクトのように実現できることがある。そうした新しいことにどんどんチャレンジしたいと思っています」

そして片山社長は、こう続けた。「お花には、人の想いが込められます。愛情も優しさも、人に伝わりやすい。これからもそんなお花を通して、たくさんの幸せをサポートしたいですね」花が結ぶつながりは、これからも続いていくのだろう。

知財
センター
から

画期的なアイデアを製品化するまでコーディネート

ユニークな学生さんのアイデアと、それを後押しする中小企業の決断によって、新たな製品が生まれました。平面ではなく立体物に印刷するというアイデアはたいへん画期的であり、しかも生花という生命への印刷であることに感動しました。商品化にまで漕ぎ着けた関係者の熱い想いに敬意を表します。担当：秋葉原 木村製品化コーディネーター